

# 黒木西

黒木西小

学校だより

文責:校長 齋藤英義

令和3年12月17日(金)

NO.17



## あいさつは「元気のおすそ分け」

先日、昼の校内放送で、子どもたちが「次のような呼びかけがなされました。」

「運営委員会からのお知らせです。運営委員会では学校全体のあいさつの輪を広げるために、朝のあいさつ運動に取り組んでいます。……西小のあいさつの輪を広げるために、進んで元気なあいさつをしていきましょう。」と。

児童会の活動のおかげで、確かに校内のあいさつがよくなってきました。朝から元気なあいさつが飛び交うのは、気持ちのいいものだと感じております。

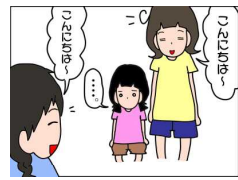
【あいさつ運動の様子】



さて、黒木西小学校では、毎月2回、保護者に登校の様子を見ていただいております。この活動は、登校時、いろいろと気づいたことを「登校指導記録簿」というノートに記入していただき、学校と家庭で連携して子どもたちの成長を見守っていきましょうという取り組みです。

私は、これまでいくつかの学校で勤務してきましたが、このような取り組みをされている学校は少ないのではないかと考えております。そんな貴重な取り組みの中で、左記のような気づきが記録簿に記載されておりました。

- うつむき加減で登校している子どもがいるので元気に前を向いて安全に注意しながら登校してほしいと思います。
- 寒いためか、みんなあいさつはしてくれませんが下を向いて元気がありませんでした。
- あいさつは、朝は小さかったです。
- 急な寒さでちよっと元気がなかったみたいです。



校内での朝の登校の様子を見ていても、大きな声で遠くからでも挨拶している子、逆に無言で通り過ぎる子……子どもの挨拶状況も様々です。



これは、どうした現象でしょうか？  
とはいももの、こういった現象は、結構多くの学校が抱えている課題だと思います。  
そして、それを自分の課題だと受け止めていた保護者から、「登校指導記録簿」を通して次のような声をいただきましたのでご紹介します。

○ 挨拶が返ってくる子どもが、以前よりも増えました。  
このような時期だからこそ、**地域の方へ元気をくれるような**挨拶を家庭でも話した方がいいと思います。

おはようございます!!



子どもたちが、**地域へ元気のおすそ分け**ができる挨拶ができるようになるために、学校で指導し、家庭で話し合っていただけというのとはとても大切なことであると考えます。

さらに、以前(20年程前)私が学級担任をしていた頃、この現象を改善するもう一つのヒントがあるのではないかと、今紹介させていただきます。



あいさつ

六年

伝統

作郎

今日、帰りの会の時先生が、「いろんな人に(自分から)あいさつをして○○小に(すばらしい)あいさつができる学校だ(という)伝統をつくらないか。」と話をされました。  
私は、さうそくその日の帰りから始めました。学校を出てからすぐには、道を通っている人がいなくなつたけど、家の近くになると、人が通っていました。

普段は、あいさつが苦手な、あいさつをしても声が小さい私だけ、下級生の手本にならなきゃ……と思いい、「こんにちは」と、大きな声であいさつをしました。相手の方も、「こんにちは。」と言ってくれました。**私はうれしくなり**、「このあいさつを、みんなができるようになったらいいなあ。」と、思いました。



保護者の皆様、地域の皆様へ

子どもたちに「**うれしくなる**」体験を味わわせ、子どもたち自身が元気になることで、地域への元気のおすそ分けの挨拶ができるように、是非ご協力ください！よろしくお願ひします。

